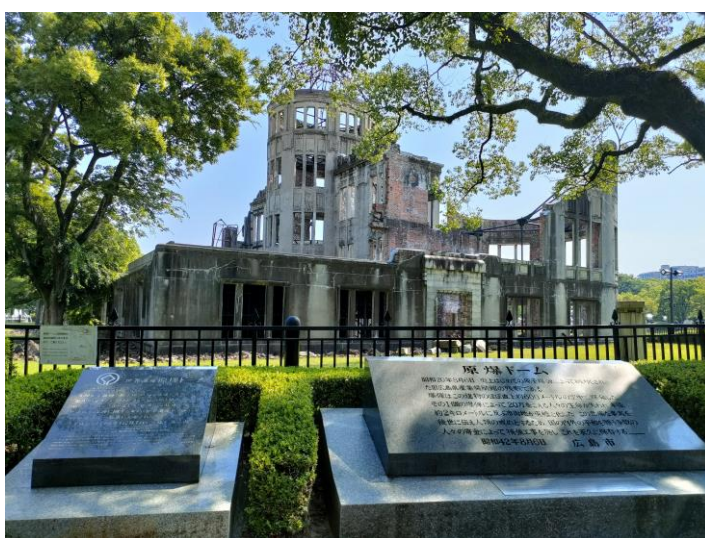


青少年派遣事業報告書

柏市平和都市宣言40周年記念



柏 市

目 次

1. はじめに	1
2. 平和都市宣言文	2
3. 派遣生の募集から派遣報告会まで	3
4. 派遣生名簿・行程表	4
5. 行程（8月5日～7日）	5
6. 広島平和宣言	11
7. 派遣生報告	14
8. 平和行政の歩み	27

は じ め に

柏市は、昭和60年3月20日に、世界の恒久平和を願い、「非核三原則の堅持」「核兵器廃絶と軍備縮小」を訴える「平和都市宣言」を行い、以来、学校訪問事業やパネル展、平和展など平和に関する事業に取り組んできました。

また、平成22年10月1日には都市間の緊密な連携を通じて、世界の恒久平和の実現に寄与することを目的とした「平和首長会議」に加盟し、更に平和施策を推進しています。

今年は、柏市平和都市宣言40周年記念事業として、平和の尊さと戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、恒久平和への理解と認識を高めるため、令和6年8月5日から7日までの三日間、市内小中学生約3万人の中から7人の中学2年生を柏市の代表として被爆地広島に派遣しました。

この報告書は、今回派遣した次の世代を担う青少年たちが、現地広島で実際に肌で感じた貴重な体験を取りまとめたものです。

市民の皆様には是非お読みいただき、平和について考える機会となれば幸いです。

柏市 平和都市宣言

わたくしたちは、「国際理解」と「平和な柏」を市民憲章にうたい、人類共通の願いである世界の恒久平和を希求している。しかし、最近における国家間の紛争や軍備拡張などによる緊張の高まりは、市民生活のうえに不安をもたらしている。

わたくしたちは、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、将来にわたってわが国が非核三原則を堅持するとともに、すべての国の核兵器廃絶と軍備縮小の達成を訴えるものである。

わたくしたちは、日本国憲法に掲げる崇高な「恒久平和」の実現のために、ここに平和都市を宣言する。

昭和60年3月20日

柏 市

派遣生の募集から派遣報告会まで

令和6年

6月5日(水)
～6月26日(水)

派遣生募集

7月4日(木)

派遣生の選考・決定

《選考委員》

柏市所管部所長・教育委員会指導課長

7月20日(土)

第1回オリエンテーション

事前説明会、自己紹介、役割分担の決定
勉強会(柏和会講話)、スケジュール確認

8月5日(月)

～8月7日(水)

広島派遣

9月28日(土)

第2回オリエンテーション

報告書作成①

11月24日(日)

第3回オリエンテーション

報告書作成②

令和7年

2月16日(日)

第4回オリエンテーション

報告書作成③、報告会役割分担の決定
スケジュール確認

3月20日(木・祝)

派遣報告会

派遣生名簿

	氏 名	学 校 名
1	あじろ すず は 網代 鈴葉	市立豊四季中学校
2	いたさか り か こ 板坂 理夏子	市立柏第二中学校
3	おぐら ともろう 小倉 友朗	市立逆井中学校
4	こまつ れ い る 小松 玲衣瑠	私立麗澤中学校
5	さいとう ゆず か 齋藤 柚花	市立柏中学校
6	すがわら あ か ね 菅原 安香音	県立東葛飾中学校
7	わたなべ ま こ 渡邊 真子	県立東葛飾中学校

行 程 表

日 程	行 程
8月5日 (月)	JR柏駅(集合)－ 平和記念公園(千羽鶴献納)－ 広島平和記念資料館(見学)
8月6日 (火)	平和記念公園(平和記念式典参列)－ ひろしま子ども平和のつどい－ 広島県庁－ 原爆ドーム－ 袋町小学校平和資料館
8月7日 (水)	国立広島原爆死没者追悼平和祈念館－ JR柏駅(解散)

行 程（8月5日～7日）

8月5日(1日目)

8:10 JR柏駅(集合)、出発式

9:48 JR東京駅(出発)

13:42 JR広島駅(到着)

14:00～17:00 平和記念公園原爆の子の像(千羽鶴献納)

広島平和記念資料館(見学)

(1) 千羽鶴献納

平和記念公園にある原爆の子の像に、派遣生が在籍する中学校の生徒等で折られた千羽鶴を献納しました。

原爆の子の像は、12歳の時に被爆による白血病で入院し、鶴を千羽折れば病気が治ると信じ、鶴を折り続けながら短い人生を終えた佐々木禎子さんの死をきっかけに、国内外からの支援により昭和33年に建てられたものです。

派遣にあたり、戦争を知らない若い世代である市内の児童生徒が、自分たちが折った千羽鶴を献納することで、改めて平和の大切さを知ってもらうことを目的に、献納用千羽鶴作成事業を実施しました。

【献納用千羽鶴作成事業協力校】

市立小学校42校、市立中学校21校、県立中学校、私立中学校



(2) 広島平和記念資料館

広島平和記念資料館は、被爆の実相を伝え、核兵器のない平和な世界の実現へ貢献するため建設されました。

館内では、音声ガイドによる解説を聞きながら見学しました。派遣の前に、本やビデオで見たパネルや模型、遺品等を間近にし、戦争の悲惨さを改めて痛感し、平和について考えさせられました。

8月6日(2日目)

8:00 平和記念式典参列、平和記念公園

10:00 ひろしま子ども平和のつどい

14:00 平和記念公園、原爆ドーム、袋町小学校平和資料館

(1) 平和記念式典

広島に原爆が投下されて令和6年8月6日で79年となります。原爆死没者慰霊碑には、この1年間で死亡が確認された5,079人の氏名が記された名簿が奉納され、これで原爆死没者名簿の登載者は、34万4,306人になりました。



原爆が投下された8時15分にあわせて、平和の鐘が打ち鳴らされ、黙祷。その後、広島市長による平和宣言が行われました。



この厳粛な式典に参列し、平和の尊さと戦争の悲惨さを改めて感じ、自分たちにできることは何かを考えさせられました。

(2) ひろしま子ども平和のつどい

広島を訪れた子どもたちと広島の子どもたちが集まり、平和について共に考えました。広島特別支援学校の合唱から始まり、実際に被爆された方の講話や被爆体験記の詩の朗読を聞きました。その後は、中学校や高校、自治体の平和大使から平和への取組の発表を聞き、同世代の子どもたちが平和のために活動している姿に心を動かされました。



(3) 広島護国神社、原爆ドーム

平和記念公園の北にある広島護国神社は、至近距離上空でさく裂した原子爆弾の放射線と熱戦の影響を受けたものの倒壊は免れた貴重な被爆遺跡です。大きな鳥居を見上げると青い空が広がり、平和の大切さを感じました。

原爆ドームは、鉄筋がむき出しで、壁のコンクリートが崩れている建物で、改めて原子爆弾の衝撃の凄まじさを感じました。二度と同じことが起こらないように願う、恒久平和の象徴の地です。



(4) 袋町小学校平和資料館

袋町小学校平和資料館は、被爆当時、救護所となりました。当時の学校の様子がパネルや模型で展示され、中でも、校舎の壁に被爆者の消息を知らせる伝言が書き残されている様は、原爆の実相に直面しました。



《平和記念式典に参列して》

平和記念式典同席者 山本 照子(柏和会会員)

令和6年8月5日より、柏市の中学2年生の生徒7人と引率の市役所職員2人と共に広島市へ向かいました。まず、平和記念公園に行き、市内の小中学生が折った千羽鶴を献納し、その後、広島平和記念資料館に行きました。夕方は皆と楽しい夕食会をいたしました。

8月6日、平和記念式典の日は晴天に恵まれ、朝早くから生徒たちと共に式場に向かいました。私は、太田和美柏市長から、松井一實広島市長へのメッセージを託されておりましたので、受付に渡して会場の中に入って席に着きました。多くの世界の方々の入場が終わり、式が始まりました。広島市のこども代表の加藤晶さん、石丸優斗さんの立派な発言に感動いたしました。

私もわずかな行動ですが、柏市の小学校を訪問し、被爆がどんなに辛いものかを話しております。これからも元気でいて、多くの学校を廻り、原爆の恐ろしさを伝えたいと思っております。

8月7日(3日目)

10:00 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

12:43 JR広島駅(出発)

17:40 JR柏駅(到着)、解散

(1) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

原爆死没者に対する追悼の意を表し、永遠の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍を全世界に知らせるために国が建設しました。

原爆で亡くなった一人一人の存在を実感できる遺影コーナーを見学したり、企画展示室で暁部隊についての動画を観ました。被爆者と少年兵の辛く苦しい思いを聴き、改めて戦争の悲惨さと原爆の恐ろしさを感じました。



《3日間を終えて①》

引率者 石塚 大介(柏市教育委員会 指導課)

広島での3日間、異常な暑さの中で過ごしましたが、怪我や体調不良者もなく無事に平和学習を終えることができました。

その中で、「百聞は一見に如かず」と言いますが、生徒たちは実際に見て回ることによって多くのことを学び、感じたようです。

特に1日目の平和記念資料館や3日目の国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、被爆に関する現物や生の声を聴くことができ、生徒たちにとって非常に印象深く、心に残る体験となりました。

また、2日目の平和記念式典への参列やひろしま子ども平和のつどいの発表を聞き、より具体的に平和について学び、その重要性を深く理解することができました。

本事業の目的である「後世に広く伝える」を踏まえ、生徒たちには自身の体験をもとに平和への願いを、この報告書や発表会を通してしっかりと伝えてほしいと思います。



《3日間を終えて②》

引率者 小泉 優菜(柏市共生・交流推進センター)

生徒たちは柏市の代表としての自覚を持ち、広島での3日間、平和について深く学びました。

平和記念資料館では、音声ガイドによる解説を熱心に聞きながら館内を見学し、ひろしま子ども平和のつどいでは、被爆体験者の講話を聴いて、一生懸命メモをとる姿がありました。平和記念式典では、真剣な表情で「平和への誓い」を聞いていました。

猛暑の中でしたが、暑くて長い道のりもお互いに声を掛け合いながら無事に広島での学習を終えました。柏に到着した時の生徒たちは、出発の時とは顔つきが変わり、非常に頼もしく見えました。広島での貴重な経験と心で感じたことを後世に語り継いでくれることを期待しています。



《3日間を終えて③》

柏市平和都市宣言40周年記念事業実行委員会 三浦 正一委員長

(柏和会代表)

柏市平和都市宣言40周年おめでとうございます。柏和会は宣言の1年後に被爆者60名で創立し、39年を迎えることが出来ました。柏市の平和団体と認知され、柏市の援助を受けて、平和活動と小学生を対象に被爆体験の講話を続けております。

毎年、広島、長崎の平和記念式典に参列しており、今回は広島の式典に山本さんが柏市長のメッセージと会員が心を込めて折った千羽鶴を持って参列いたしました。選抜された中学2年生の生徒たちは、平和記念資料館のパネル、写真等を見て、戦争と原子爆弾の実相を知り、戦争の悲惨さを心に深くとめられたものと思います。

これからは、平和の尊さを後世に伝えてください。二度と戦争はしてはいけない、原子爆弾は絶対に使ってはいけないと世界中に発信してください。

《オリエンテーションを終えて》

柏市平和都市宣言40周年記念事業実行委員会 井野口 典子副委員長

(柏・麦わらぼうしの会代表)

中学生という多感な時期に広島を訪れ、耳で聞き目で見て肌で感じた経験は、皆さんの人生において大きな礎となることでしょう。

核のない世界の実現のため、考え、学び、行動してください。

そしてなにより、自分を愛し、周りの人を愛し、平和を愛し、価値ある人生を歩んで下さい。応援しています。



広島平和宣言

皆さん、自国の安全保障のためには核戦力の強化が必要だという考え方をどう思われますか。また、他国より優位に立ち続けるために繰り広げられている軍備拡大競争についてどう思いますか。ロシアによるウクライナ侵攻の長期化やイスラエル・パレスチナ情勢の悪化により、罪もない多くの人々の命や日常生活が奪われています。こうした世界情勢は、国家間の疑心暗鬼をますます深め、世論において、国際問題を解決するためには拒否すべき武力に頼らざるを得ないという考えが強まっていないでしょうか。こうした状況の中で市民社会の安全・安心を保つことができますか。不可能ではないでしょうか。

平和記念資料館を通して望む原爆死没者慰霊碑、そこで祈りを捧げる人々の視線の先にある原爆ドーム、これらを南北の軸線上に配置したここ平和記念公園は、施行から今日で75年を迎える広島平和記念都市建設法を基に、広島市民を始めとする平和を願う多くの人々によって創られ、犠牲者を慰霊し、平和を思い、語り合い、誓い合う場となっています。

戦後、我が国が平和憲法をないがしろにし、軍備の増強に注力していたとしたら、現在の平和都市広島は実現していなかったのです。この地に立てば、平和を愛する世界中の人々の公正と信義を信頼し、再び戦争の惨禍が起こることのないようにするという先人の決意を感じることができるはずです。

また、そうした決意の下でヒロシマの心を発信し続けた被爆者がいました。「私たちは、いまこそ、過去の憎しみを乗り越え、人種、国境の別なく連帯し、不信を信頼へ、憎悪を和解へ、分裂を融和へと、歴史の潮流を転換させなければなりません。」これは、全身焼けただれた母親のそばで、皮膚がむけて赤身が出ている赤ん坊、内臓が破裂して地面に出ている死体…生き地獄さながらの光景を目の当たりにした当時14歳の男性の平和への願いです。

1989年、民主化に向けた市民運動の高まりによって、東西冷戦の象徴だったベルリンの壁が崩壊しました。かつてゴルバチョフ元大統領は、「われわれには平和が必要であり、軍備競争を停止し、核の恐怖を止め、核兵器を根絶し、地域紛争の政治的解決を執拗に追求する」という決意を表明し、レーガン元大統領との対話を行うことで共に冷戦を終結に導き、米ソ間の戦略兵器削減条約の締結を実現しました。この

ことは、為政者が断固とした決意で対話をするならば、危機的な状況を打破できることを示しています。

皆さん、混迷を極めている世界情勢をただ悲観するのではなく、こうした先人たちと同様に決意し、希望を胸に心を一つにして行動を起こしましょう。そうすれば、核抑止力に依存する為政者に政策転換を促すことができるはずです。必ずできます。

争いを生み出す疑心暗鬼を消し去るために、今こそ市民社会が起こすべき行動は、他者を思いやる気持ちを持って交流し対話することで

「信頼の輪」を育み、日常生活の中で実感できる「安心の輪」を、国境を越えて広めていくことです。そこで重要になるのは、音楽や美術、スポーツなどを通じた交流によって他者の経験や価値観を共有し、共感し合うことです。こうした活動を通じて「平和文化」を共有できる世界を創っていきましょう。特に次代を担う若い世代の皆さんには、広島を訪れ、この地で感じたことを心に留め、幅広い年代の人たちと「友好の輪」を創り、今自分たちにできることは何かを考え、共に行動し、「希望の輪」を広げていただきたい。広島市は、世界166か国・地域の8,400を超える平和首長会議の加盟都市と共に、市民社会の行動を後押しし、平和意識の醸成に一層取り組んでいきます。

昨年度、平和記念資料館には世界中から過去最多となる約198万人の人が訪れました。これは、かつてないほど、被爆地広島への関心、平和への意識が高まっていることの証しとも言えます。世界の為政者には、広島を訪れ、そうした市民社会の思いを共有していただきたい。そして、被爆の実相を深く理解し、被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」という平和への願いを受け止め、核兵器廃絶へのゆるぎない決意を、この地から発信していただきたい。

NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議が過去2回続けて最終文書を採用できなかったことは、各国の核兵器を巡る考え方に大きな隔たりがあるという厳しい現実を突き付けています。同条約を国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石として重視する日本政府には、各国が立場を超えて建設的な対話を重ね、信頼関係を築くことができるよう強いリーダーシップを発揮していただきたい。さらに、核兵器のない世界の実現に向けた現実的な取組として、まずは来年3月に開催される核兵器禁止条約の第3回締約国会議にオブザーバー参加し、一刻も早く締約国となっていただきたい。また、平均年齢が85歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、在外被爆者を含む被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆79周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、改めて被爆者の懸命な努力を受け止め、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。皆さん、希望を胸に、広島と共に明日の 平和への一歩を踏み出しましょう。

令和6年（2024年）8月6日

広島市長 松 井 一 實

派遣生報告

平和な世の中へ。心を込めて

豊四季中学校 網代鈴葉

本事業で、一番印象に残ったのは広島平和記念資料館です。広島に原爆が落ちたことは有名ですが、その背景で何が起きていたのか、人々はどのように過ごしていたのか、その後どうなったのかを詳しくは知りませんでした。実際に資料館に行き、初めてその背景を詳しく知ることができました。原爆が落ちた時の衝撃だけでなく、その後も後遺症に苦しんだり、家族を失って突然1人になった子どもたちや、子どもを失った親を描写した展示物を見学し、当時の手紙のやりとりを直接読むことで、被災者の感情を垣間見ることができました。



また、原爆が落とされた当時のまま残されている服や建物、絵画が展示されていて、実際に体験していないにもかかわらず、とても不安と恐怖を覚えました。資料館の音声ガイドを通じて、この写真はいつ、どこで撮られたもので、何が起こったのかを聞くことができ、視覚と聴覚の両方で当時の情景を鮮明に思い浮かべることができました。

たくさんの展示物の中でも、特に印象に残っているのは、火傷を負い、手を前に突き出して水を求め、さまよい歩いている人たちの絵です。なぜ彼らが手を前に突き出した状態で歩いているのか初めは理解できませんでしたが、その後の説明で、皮膚がただれているため、その姿勢が一番楽だと知り、もし自分が同じ目に遭ったらと考えると恐ろしくで仕方がありませんでした。資料館で学んだことは一生忘れず、恐怖とともに心に残ると思います。



この派遣を通して、争いほど醜いものはないと学びました。広島に

落とされた一発の原爆によって多くの命や幸せが奪われ、罪のない人々が地獄の底に突き落とされました。毎年8月6日を迎えるたびに、私はこの経験を思い出すことでしょう。

「知ってください、そして忘れないでください。」これは、実際に広島や長崎で起こったことを知り、語り継ぐことで二度と悲劇が起こらないようにしてほしいという被爆者の切実な願いです。

なぜ罪のない人々が死ななければならなかったのか、けがを負わなければならなかったのか、無駄な命なんてこの世にはありません。戦争が終わり、日本は平和な国になりました。しかし、世界に目を向ければ日常的に戦争や紛争が起きている国もあります。私たち子供ができることは限られています。しかし、大人の皆さんならできることがあります。力を貸してください。困っている人たちを助けてほしいのです。

私たち一般市民にできることは限られているかもしれませんが、歴史を知ることで私たちの財産となり、世界から戦争がなくなる一歩だと思います。そして、募金活動や記事を読むこと、知ったことを周りの人に共有すること。そんな日々の積み重ねが平和へとつながると、私は信じています。

原爆を使わない世界

柏第二中学校 板 坂 理夏子

令和6年8月5日から7日まで広島市を訪れました。

最も印象に残った場所＜国立原爆死没者追悼平和祈念館＞

理由1、被爆者の所持品の展示

所持品の中に、船舶通信部隊の砂川さんという方のカバンとゲートルがありました。砂川さんは体に無数のガラスが刺さり、近くの山に避難されたそうです。その後、重症を負った市民が続々と集まり、砂川さんは市民の手当を行われました。砂川さんは、「人間が人間に対してなしうる残虐にこれ以上のことがあるだろうか。」という言葉を残されています。この文を読み、原爆は身体的な面だけではなく、精神的にも人間を蝕む兵器だと実感し、強く印象に残っています。



理由2、暁部隊の企画展

企画展では、少年兵の証言のビデオが放映されていました。私は自分と大して変わらない年齢の少年兵らが地獄絵図のような広島で救助にあたる姿に衝撃を受けました。特に印象に残っているのは、亡くなった母親を運ぶ少年兵に向かって、子供が「おかあさん」と叫び続けた、というエピソードです。少年兵はそこに留まるよう子供に告げましたが、帰ってきたときにはもう子供はいなくなっていたそうです。母親と離れ離れになった子供の悲しさと、少年兵の虚しさが伝わってきました。元少年兵で救護にあたった方は映像の中で涙を流されていました。何十年の時が経ってもなお残り続ける心の傷の深さを痛感しました。

＜派遣事業を通して＞

「原爆は無くすべきである。」今回の派遣事業で強く思いました。しかし、原爆を造る技術が生まれてしまった以上、世界から完全に原爆を無くすことは不可能です。だからこそ、一人一人の意識の改革が必要だと考えます。原爆は使わないことが当たり前、という考えが広まれば、原爆をなくせはしなくとも、使われなくなるのではないのでしょうか。



今回の派遣事業で、私は原爆の悲惨さや使われてしまった経緯を学びました。これらの学びと、これから行われる報告会や日常生活の中で多くの人に伝え、私が考える当たり前を広めていきたいと思いました。戦争の話題は重く、不安な気持ちになります。友達と生活の中で気軽に話せるものではありません。しかし、戦争に関する事に対して簡単な感想でもいいから互いに話し合うということは非常に重要だと思います。戦争はいけない、という共通認識を確かめ合い、その認識がより強固なものになるために必要なことを、これから考え努力していきたいです。

これ以上、戦争で悲しむ人を増やさないように

逆井中学校 小倉 友 朗

僕が、広島への派遣事業の中で一番印象に残った場所は、広島平和記念資料館です。

広島平和記念資料館には、被爆者の遺品や被爆の惨状を表わした写真や絵などが展示されています。遺品といっても被爆してすぐに亡くなった方々の遺品も多く、その多くは黒こげになっていたり、洋服などだったら所々破れていたり、血の染みがあったり、剥がれた皮がついていたりして、被爆後の惨状を物語っています。

その中で特に印象に残っているのが、川に入って、そのまま、亡くなってしまった人々が川を流れる水死体になって膨らんでしまった情景を描いた絵でした。原爆の影響で全身に火傷を負っている状態の人は、水を求めて水槽や川に飛び込んだりするのですが、極度の脱水状態になっている場合、水を飲むと急死してしまいます。救助隊に助けられた後、病院に行ったりしても、水を飲ませるなど言われているのですが、その先数分の命の場合水を求めてそのまま苦しんで死んでしまう場合があります。そのため、資料の救助隊の方々は、「こんなことになるなら、水を一口でも飲ませてあげたら良かったかもしれない」と言っていました。

原爆を受けて、全身やけどを負って、死ぬにも死にきれず、苦しみながらひとりで死んでしまうのがどんなに辛く悲しいことなのか、原爆を受けていない僕たちには分かるはずがありません。

ですが、僕たちが戦争を無くすため、原爆を無くすため、これ以上戦争で悲しむ人が増えないようにするため、この惨状を知っている人を増やすため、家族や友達に伝えて、少しでも知ってほしいと思います。

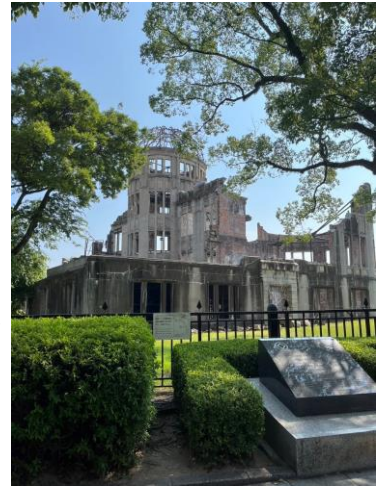


過去を振り返り、未来へつなぐ

麗澤中学校 小 松 玲衣瑠

私が柏市平和都市宣言40周年記念青少年派遣事業に参加して印象に残ったことは二つあります。

一つ目は、広島平和記念資料館などの資料館で、被爆者の写真を見たことです。小学校の教科書などで広島原爆での死亡者や被害などを文章で学んだときに、言葉で説明されても、腕がなくなり、背中全体に火傷のあとが残るなどの想像ができませんでした。しかし、写真で被爆者の状況を見ることで、自分がこうなったら、どんな痛みだろうと想像ができました。手足が千切れたら、内臓が飛び出たら、背中をやけどで皮膚がただれたら、ガラスの破片が体に刺さったまま生きていくとしたら、どんな痛みだろう。経験したことがない痛みを想像しても、実際の痛みには程遠いと思います。だからこそ、被爆者の痛みを想像して、後世に伝え、もう二度と同じ行為が行われないように訴えていく必要があると考えました。



二つ目は、原爆死没者追悼平和祈念館の企画展の、暁部隊についての動画を見たことです。私は、特攻隊については少し知っていたのですが、暁部隊については全く知りませんでした。暁部隊は、隠された特攻隊で、自爆するために戦地に向かいます。ですが、実際には原爆が投下されたため特攻兵として戦地に向かうことはなく、たくさんの死体が地面に横たわり、血の生臭いにおいが立ち込める広島で救護にあたることになったそうです。私たちと同年代の男子があと少しで特攻隊として戦地に向かって飛んでいっていたと考えると、とても怖くなりました。また、当時それを許した大人たちは、未来ある少年兵たちの命を奪ったことを忘れず、子どもたちに伝える努力をしてほしいです。

これらの体験を通して、今の大人がどんな条約を結んだり、紛争国に援助をしたりしているのかを知らないこと



に気づき、日本政府の対応に興味湧き、調べてみました。すると、日本は核兵器禁止条約に参加していないと分かりました。しかも、核兵器禁止条約への日本の参加に関する日本政府の見解は「核を含む米国の抑止力に依存することが必要」です。唯一の戦争被爆国の日本が何を言っているんだと憤慨しました。被爆者は、日本人だけではありません。原子爆弾の実験中に被爆した人もいます。そこで、日本は被爆国としてもう二度と核兵器による被害がでないように他国に発言、また無くす努力をする必要があると考えました。そのために、次の世代を担う私達が同年代に被害を伝え、どうすれば核兵器をなくせるか、考え続けたいです。

私たちがすべきこと

柏中学校 齋藤柚花

私は、夏休み中の三日間を広島で過ごしました。広島に行く前、私は戦争の知識はあまりありませんでした。ですが、私はこの三日間で、原爆がもたらしたたくさんの被害、一瞬でなくなってしまった当時の町並み、そこから復興を遂げた今の広島など、原爆による被害の実態や歴史の学びを得ることができました。

三日間の短い期間の中で、私たちは様々な施設を訪れました。私は、その施設の中でも、「広島平和記念資料館」が一番心に残っています。この資料館にはたくさんの展示がありましたが、私は被爆者の写真が印象的でした。

背中に大きなケロイドを負った人、全身に火傷を負った人、亡くなっている人など、とても痛そうで見るとも辛いものばかりでした。原爆はこんなにも人を傷つけ、犠牲にしたんだなと思い、とても怖く、悲しくなりました。原爆で直接被爆した方のみならず、放射線によって被爆した方の写真もありました。原爆はさく裂した後も放射線によって人々を苦しめました。今もなお、苦しんでいる人は十万人以上いるそうです。

今回、広島派遣に参加させていただいて、広島に行かなければ知ることのできない原爆による被害を知り、改めて戦争は繰り返してはいけない、原爆を二度と落としてはいけないと強く思いました。ですが、今もウクライナとロシアをはじめ、戦争や紛争、内戦をしている国があります。更に、アメリカなど世界九カ国は、原爆と同じ核兵器を保有しています。世界で唯一の被爆国として、私たちは「核兵器のない世界」・世界平和に努めなければいけません。そのためには、誰もが「戦争の恐ろしさ」・「核の恐ろしさ」を知っていなければいけないと私は思います。私が今できることは、周りの人に今回の体験を話し、恐ろしさを伝えることくらいしかありませんが、それだけでもたくさんの人が聞く・伝えるを繋げていくことで、やがて誰もが「戦争の恐ろしさ」・「核の恐ろしさ」



を知る世界になるのではないのでしょうか。これから私は、戦争をする
必要がない・核が必要のない平和な世界が少しでも早く実現させられ
るように行動していきたいです。

原爆と平和

東葛飾中学校 菅 原 安香音

今回の派遣事業の中で、私が一番行って良かったと感じた場所は、広島平和記念資料館です。ここでは、原子爆弾によって亡くなった方の遺物や当時の写真などから、原子爆弾がどれほど危険で、悲惨なものであるかが感じられます。

1945年8月6日、広島に原子爆弾「リトルボーイ」が投下されました。爆心地から約1.5キロメートル以内で熱線の直射を受けた人は、皮膚が焼き尽くされ、内臓までが被害をうけ、ほとんどの人が亡くなったそうです。こんなことを聞いて、何も感じない人はいないと思います。大抵の人は、原子爆弾について、怖い、悲惨だなどという感想を持つでしょう。



過去のNHKの世論調査によれば、原爆投下の日を半分以上の人が知らないそうです。しかし、日本の戦争の歴史や、被害についての興味を示している人は多いという結果になっています。なぜ、興味があるのに調べないのでしょうか。それは、「面倒くさい」からだと思います。

そんな状況下で、原子爆弾の悲惨さを後世に伝えていくために、私は、ヒロシマ、ナガサキで起こった悲劇について深く理解し、学び、共感できるようにしていきたいです。戦争に出ている兵隊たちは、自分で望んでいない、「死」を理解していない者がほとんどで、何も知らずに特攻隊にさせられたそうです。それを強要した政府のこの行いは、許しがたいことだと思います。しかし、今日の世界情勢に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ情勢の悪化など、第三次世界大戦への一途を辿ろうとしています。過去に行われた許しがたいことが、現在でもまた、起こされようとしているのです。一日でも早く、平和と共に日



常を歩むため、身近なところから平和に貢献できるようになりたいです。私は、この悲劇の悲惨さを、深く胸に刻み、日常に生かしたいと思います。

平和への祈り～知ってほしい広島～の記憶～

東葛飾中学校 渡 邊 真 子

広島を訪れて、初めに私たちは折り鶴を献納しました。他の人が献納した折り鶴でいっぱいになっていました。外国の方のメッセージもあったので、いろいろな人が平和を祈っているのだと実感しました。



次に、広島平和記念資料館へ行きました。そして、原爆の被害の実相を学びました。今広島は、緑が輝き、ビルが立ち並び、人でにぎわう街です。しかし、原爆が落とされた時・・・それは一瞬にして焼き払われ、大勢の人が全身をやけどし、大怪我をし、亡くなってしまうことを学びました。資料館では、様々な衝撃的な話、絵、もの、写真を見ました。曲がった鉄、ボロボロの衣類、火の海の町、水に飛び込む人々・・・すべて衝撃的で、この世で起こったことだとは思えませんでした。背中に広がったケロイドはとても痛そうでした。被爆20年後に体から取り出されたガラス片がとても大きく、大丈夫だったのかなと思いました。原爆が投下した時間で止まっている時計は、爆弾の衝撃の大きさを物語っていました。



式典では、老若男女国籍問わず大勢の人が参加していました。一人ひとりに平和の尊さが伝わっていれば良いなと思いました。

次に行った広島こどもの集いでは、子供たちが平和への思いをつなぐ発表を行っていました。一人一人が思いを込めて群読し、自分たちの周りを変えていくための取り組みをしていました。それに倣い、私も周りとは協力して平和への一歩を踏み出す行動をしなくてはならないと思われました。

一番心に残ったのは、被爆者から直接聞いた被爆体験講話です。工場で働いていた時に被爆したそうです。気が付いたらがれきの下敷きになっていて、動けなくなっていたそうです。必死にもがいて出たそうです。町中にある死体を踏んで、人を担ぎ、運んだそうです。こんなことがあって良いの？とおっしゃっていました。私は死体を踏むの

に何も思わなくなることがあるのかと、とても悲しく思いました。その方の親は、食料が無い中、必死に自分を探してくれて、おにぎりを食べさせてくれたそうです。それだけで涙が出たそうです。私は、そんなひもじい生活に心が痛み、親の情に感動しました。しかし、その方の親は自分の子を探し回ったせいで、原爆症で亡くなってしまったそうです。本当に原爆はいけないと思いました。私は、大勢の人が亡くなり、病気や怪我で苦しみ続け、原爆症の負の連鎖が孫にまで続いていくということを知り、やるせない気持ちになりました。しかしそれが現実なのです。今もどこかで戦争が起きています。

私は、自他ともに命を大切にしていきたいです。生きていることのありがたさ、今、不自由なく、人を憎むことなく、誰かを傷つけることなく生活できることのありがたさを学んだからです。意見が食い違った時でも、相手の言葉に耳を傾けて、自分の周りから少しずつ争いを減らしていきたいです。自分にできることは限られていても、周りは変えてゆくことができるからです。そして、戦争の悲しさ、原爆の恐ろしさを伝えていきたいです。世界ではまだ戦争が続いており、核兵器保有国はたくさんあるからです。それが、平和の輪を広げることにつながりますし、私のできる被爆者への慰めだと思います。

平和行政の歩み

年	平和行政の歩み
1985 (昭 60)	○議会が「平和都市宣言に関する決議」を可決、同日市長に送付、決議を受け市長が議会議場において平和都市宣言(3/20) ○平和都市宣言パネル作成(3月) ○議会「外国人登録法の改正に関する意見書」「被爆者医療の充実に関する意見書」可決(6/24) ○図書館「平和を求めて」図書展(8月、以降毎年) ○教育委員会「平和へのねがい」発刊(8/15) ○議会「下総航空基地の整備計画凍結に関する意見書」可決(12/20)
1986 (昭 61)	○議会「シベリア抑留者の恩給加算に関する意見書」可決(3/27) ○第 1 回平和展(8/11～16) ○教育委員会「平和へのねがい」改訂(8/15) ○平和祈念碑完成(12/18)
1987 (昭 62)	○議会「下総基地問題対策特別委員会」設置(9/28)
1988 (昭 63)	○教育委員会「平和へのねがい」増補(1月) ○第 2 回平和展(3/14～19) ○第 3 回平和展(8/8～13) ○平和映画会「隣の人のかき」他(8/12) ○旭小・中原中が承德市の学校と友好校締結(10月)
1989 (昭 64) (平元)	○議会「下総基地問題対策特別委員会(第 2 期)」設置(9/19)
1990 (平 2)	○議会「在日韓国人の法的地位協定に関する意見書」可決(3/23) ○平和講演会:田久保忠衛氏(杏林大学教授)(3/17) ○第 4 回平和展(3/26～31) ○平和都市宣言 5 周年記念パンフレット「平和」作成(3/26)
1991 (平 3)	○議会「北方領土早期返還と日ソ友好関係の促進を求める意見書」「朝鮮民主主義人民共和国との国交樹立の促進を求める意見書」可決(3/25) ○第 5 回平和展(3/25～30)
1992 (平 4)	○平和講演会:角間隆氏(国際ジャーナリスト)(3/21) ○第 6 回平和展(3/23～27) ○柏市国際交流協会設立(6/20)
1993 (平 5)	○市立柏高校とトランス北高校が姉妹校提携(2/10) ○第 7 回平和展(3/22～26) ○平和講演会:大蔵雄之助氏(東洋大学教授)(3/26) ○「市民がつづる戦争体験記」発行(3月) ○翻訳ボランティア制度創設(10/8)
1994 (平 6)	○第 8 回平和展:第 1 部(3/9～14)第 2 部(3/16～21) ○平和講演会:岡村真理子氏(カンボジアに学校を贈る会)(3/24) ○外国人アドバイザー制度創設(6/1) ○平和の尊さを伝えるおはなし会(7/9) ○平和の折り鶴をつなぐ会(7/20) ○平和の使者を広島・長崎へ派遣。平和の折り鶴を広島・長崎の各平和記念公園へ捧げる(8/5、8/8) ○平和都市宣言 10 周年記念コンサート(11/12)
1995 (平 7)	○平和書道展(第 9 回平和展)(3/14～22) ○平和映画会「はだしのゲン」(3/18) ○戦後 50 周年・柏市平和都市宣言 10 周年記念「かわる柏 かわらぬ平和への願い」発行(3/31)

	○戦後 50 周年記念第 10 回平和展:「戦時中のかしわ」と「柏市の平和施策」を写真で紹介。柏そごう 8 階連絡通路 (7/25～31) ○中国・フランスへの核実験中止要請書の送付 (9/1) ○議会「フランス共和国及び中華人民共和国の核実験に反対する決議」可決 (9/8) ○平和映画会「北緯 15° のデュオ」柏シネマサンシャイン (9/21)
1996 (平 8)	○中国への核実験中止要請書の送付 (6/14) ○議会「中華人民共和国の核実験に反対する決議」可決 (6/25)
1997 (平 9)	○第 11 回平和展:核兵器に関するパネル展示。柏そごう 8 階連絡通路 (3/12～17) ○平和映画会「火垂るの墓」中央公民館 5 階講堂 (3/23)
1998 (平 10)	○第 12 回平和展:「旧ソ連抑留画家作品展(木内信夫氏)」中央公民館かしわ市民文化サロン (3/18～22) ○平和映画会「マヤの一生」「魔女の宅急便」中央公民館 5 階講堂 (3/27) ○インドへの核実験中止要請書の送付 (5/12) ○パキスタンへの核実験中止要請書の送付 (5/29) ○議会「インド及びパキスタン・イスラム共和国の核実験に反対する決議」可決 (6/5)
1999 (平 11)	○平和展:「平和への確かな一歩～国際交流・国際協力へのさまざまな取り組み～」中央公民館美術サロン (3/3～9) ○戦争体験談と映画上映会:平和の会による戦争体験談、映画「さよならカバくん」教育福祉会館 2 階大会議室 (3/27)
2000 (平 12)	○柏市平和都市宣言 15 周年事業平和展:「長崎原爆被災展」柏市民ギャラリー。柏市、長崎市及び(財)長崎平和推進協会の共催 (2/13～2/20) ○「被爆体験お話し会」中央公民館講堂。柏市、長崎市及び(財)長崎平和推進協会の共催。(財)長崎平和推進協会永野悦子氏による被爆体験講話、映画「ナガサキの少年少女たち」(2/13) ○「被爆体験講話」小学校 7 校、中学校 2 校で開催 (2/14～19)
2001 (平 13)	○平和展:市民の被爆体験文及び原爆ポスターの展示。市役所第二庁舎ロビー (3/21～30) ○「被爆体験お話し会」、映画上映「はとよひろしまの空を」教育福祉会館大会議室 (3/24) ○議会「無差別テロの根絶と平和を求める決議」可決 (9/20)
2002 (平 14)	○平和ビデオ作成「聴いてください。わたし達の戦争体験【内地編】」市内戦争体験者 5 名の語りを収録 (3 月) ○平和展:パネル及び戦争物品の展示、ビデオ放映「聴いてください。わたし達の戦争体験【内地編】」かしわインフォメーションセンター (3/21～30)
2003 (平 15)	○平和ビデオ作成「聴いてください。わたし達の戦争体験【戦地編】」市内戦争体験者 5 名の語りを収録。(3 月) ○平和展:写真パネルの展示、ビデオ放映「聴いてください。わたし達の戦争体験【戦地編】」柏市役所第二庁舎 1 階ロビー (3/19～28) ○議会「北朝鮮による拉致問題の早期解決を求める意見書」可決 (6/26)
2004 (平 16)	○平和ビデオ制作「聴いてください。わたし達の戦争体験【原爆編】」広島・長崎原爆体験者 3 名の語りを収録 (2 月) ○平和展:原爆写真パネルの展示、ビデオ放映「聴いてください。わたし達の戦争体験【原爆編】」柏市民ギャラリー (2/20～27) ○柏市平和都市宣言 20 周年記念事業平和 DVD 配布「聴いてください。わたし達の戦争体験【内地編、戦地編、原爆編】」13 人の語りを収録したものを市内の全小・中・高校へ配布 (6/23) ○柏市平和都市宣言 20 周年記念事業平和展:「移動平和展」原爆に関する写真パネル展示、ビデオ放映「聴いてください。わたし達の戦争体験【内地編、戦地編、原爆編】」近隣センター 8 箇所を巡回 (7/6～8/30) ○平和都市宣言 20 周年記念平和展(第一部):「平和&国際交流展」戦争に関する写真パネル及び

	物品展示、柏市国際交流協会等による国際交流活動紹介、平和団体の活動紹介。柏市民ギャラリー(10/7～9)
2005 (平 17)	○平和都市宣言 20 周年記念式典:小中学生による平和作文優秀作品の表彰、平和ビデオ出演者及び国際理解活動協力者の紹介、市立かしわ幼稚園児による遊戯、麗澤中学生による平和の演劇、増尾西小学生による合唱など。PR ポスターは高校生の絵を採用し作成。アミュゼ柏クリスタルホール(3/20) ○平和都市宣言 20 周年記念平和展(第二部):「国際交流から平和へ」戦争に関する物品資料、平和団体の活動紹介、柏市・沼南町の国際交流協会等による国際交流活動の紹介など。アミュゼ柏プラザ(3/17～20) ○平和展:パネル及び戦争物品の展示、ビデオ放映「聴いてください。わたし達の戦争体験」手賀の丘公園どんぐりの家(10/8～10)
2006 (平 18)	○旧沼南町地区の全小中学校、庁舎、公民館及び近隣センターに「柏市平和都市宣言」額を配布。小中学校にはあわせて平和 DVD「聴いてください。わたし達の戦争体験」を配布(3 月) ○平和展:パネル及び戦争物品の展示、ビデオ放映「聴いてください。わたし達の戦争体験」手賀の丘公園どんぐりの家(8/17～20) ○北朝鮮への核実験中止要請書の送付(10/18)
2007 (平 19)	○平和朗読会「どっきり!!ばけくらべ」市役所第二庁舎ロビー(8/9)
2008 (平 20)	○「柏市戦時体験写真集」発行(3 月) ○平和展:パネル展示、戦争体験者による体験談、平和朗読劇など。柏の葉アーバンデザインセンター(3/20～22) ○ロビー朗読会:柏・麦わらぼうしの会 市役所第二庁舎ロビー(8/6)
2009 (平 21)	○平和展:パネル展示、ビデオ放映、JICA 活動紹介など。柏の葉国際交流ラウンジ(3/18～25) - 写真パネル展示、柏・麦わらぼうしの会ロビー朗読会 市役所第二庁舎ロビー(3/19) ○北朝鮮の核実験への抗議(5/27) ○学校訪問事業開始。(訪問校:14 校) ○ロビー朗読会:柏・麦わらぼうしの会 市役所第二庁舎ロビー(8/6)
2010 (平 22)	○平和市長会議加盟(2/1) ○「ヒロシマ・ナガサキ議定書」賛同署名(3 月) ○平和展:パネル展示、戦時品展示、JICA 活動紹介など。さわやか県民プラザギャラリー(3/19～21) - 平和講演会 語り部の会、柏和会、柏・麦わらぼうしの会(3/20) ○DVD[伝えたい 私たちの想い]作成 ○学校訪問事業(訪問校:26 校) ○ロビー朗読会:柏・麦わらぼうしの会 市役所第二庁舎ロビー(8/9)
2011 (平 23)	○平和展:東日本大震災のため中止 ○DVD[伝えたい 私たちの想い]市内小中学校に配布 ○学校訪問事業(訪問校:22 校) ○ロビー朗読会:柏・麦わらぼうしの会 市役所第二庁舎ロビー(8/15)
2012 (平 24)	○平和展:パネル展示、戦時品展示、平和啓発用 DVD、JICA 活動紹介、市民の笑顔展など。柏市民ギャラリー(3/17～21) ○学校訪問事業(訪問校:25 校) ○ロビー朗読会:柏・麦わらぼうしの会 市役所第二庁舎ロビー(8/6) ○平和祈念パネル展:市役所第二庁舎ロビー(8/6～15)
2013 (平 25)	○平和展:パネル展示、戦時品展示、平和啓発用 DVD、柏・麦わらぼうしの会の朗読劇など。中央公民館、沼南支所(3/19～23)

	○学校訪問事業(訪問校:25校) ○平和祈念パネル展示:藤心、光ヶ丘、田中近隣センター、沼南支所の4ヶ所(8/2~30)
2014 (平 26)	○平和展:柏一小歌唱・吹奏楽公演、アコーディオン演奏、パネル展示、柏和会の講話、柏・麦わらぼうしの会の朗読劇など。柏第一小学校(3/21) ○学校訪問事業(訪問校:24校) ○平和祈念パネル展示:豊四季台、南部、田中近隣センター、沼南公民館の4ヶ所(8/1~29) ○柏市平和都市宣言30周年記念事業:中学2年生8名を広島へ派遣(8/5~7)
2015 (平 27)	○派遣報告会及び平和展:派遣中学生の報告、少年少女合唱団による合唱、柏和会の講話、柏・麦わらぼうしの会の朗読劇、原爆パネルの展示、平和の木、折鶴コーナーなど。柏市中央公民館(3/22) ○学校訪問事業(訪問校:23校) ○平和祈念パネル展示:布施、旭町、増尾、光ヶ丘近隣センターの4ヶ所(7/31~8/30) ○平和展:工作教室、平和ビデオ上映、原爆パネルの展示など。光ヶ丘近隣センター(8/29)
2016 (平 28)	○DVD[戦後70年 伝えたい、私たちの想い]作成 ○学校訪問事業(訪問校:22校) ○平和祈念パネル展示:沼南、高柳、高田、松葉近隣センターの4ヶ所(8/1~27) ○平和展:工作教室、平和ビデオ上映、原爆パネルの展示など。松葉近隣センター(8/27) ○平和展:工作教室、平和ビデオ上映、原爆パネルの展示、柏和会の講話、柏・麦わらぼうしの会の紙芝居など。パレット柏(3/23)
2017 (平 29)	○学校訪問事業(訪問校:21校) ○平和祈念パネル展示:手賀、酒井根、富里、新富近隣センターの4ヶ所(8/4~9/1) ○ピースウィーク:工作教室、原爆パネルの展示、柏和会の講話、ミニクラシックコンサート、歴史探検バスツアーなど。アミューズ柏、パレット柏他(8/19~27)
2018 (平 30)	○平和祈念パネル展示:平和に関するパネルの展示、ミニクラシックコンサートなど。パレット柏(3/16~22) ○学校訪問事業(訪問校:18校) ○ピースウィーク:工作教室、平和ビデオ上映、原爆パネルの展示、柏・麦わらぼうしの会の朗読劇、ミニクラシックコンサート、歴史探検バスツアーなど。パレット柏他(8/20~31)
2019 (平 31) (令元)	○平和展:柏・麦わらぼうしの会の朗読劇など。パレット柏(3/21) ○学校訪問事業(訪問校:19校) ○ピースウィーク:工作教室、平和ビデオ上映、原爆パネルの展示、柏・麦わらぼうしの会の朗読劇、ミニクラシックコンサート、歴史探検バスツアーなど。パレット柏他(8/2~20)
2020 (令 2)	○平和都市宣言35周年記念事業「平和 kyo 演」:新型コロナウイルス感染症の影響により中止 ○学校訪問事業(訪問校:6校) ○ピースウィーク:原爆パネルの展示。パレット柏(8/3~17)
2021 (令 3)	○平和都市宣言35周年記念事業「平和 kyo 演」:市内高校生による平和演劇、柏和会の講話、柏・麦わらぼうしの会の朗読劇、平和コンサート。市民文化会館小ホール(3/20) ○学校訪問事業(訪問校:16校) ○ピースウィーク:パネルの展示、歴史探検バスツアーなど。パレット柏他(8/3~25) ○令和3年1月に発効した核兵器禁止条約に関し、日本政府が締約国会議にオブザーバーとして参加することを要請する文書を柏市長から外務大臣に送付(12/24)
2022 (令 4)	○ロシアのウクライナへの軍事侵攻に対し、ロシア軍の即時かつ無条件な撤退と国際法に基づく誠意を持った対応を強く求める市長コメントを发出(3/8) ○平和展:いわさきひろパネル展、アンネの日記ピーススタディーツアー。パレット柏(3/14~28) ○学校訪問事業(訪問校:12校)

2023 (令 5)	○ピースウィーク:パネルの展示、歴史探検バスツアーなど。パレット柏他(8/3～24) ○平和都市宣言記念企画:ウクライナから柏市内に避難してきたかたの講演、ウクライナのお菓子作り等。ザ・クレストホテル柏(3/19) ○学校訪問事業(訪問校:14校) ○ピースウィーク:パネルの展示、歴史探検バスツアーなど。パレット柏他(8/7～23)
2024 (令 6)	○平和都市宣言記念企画:パネル展示、セーブ・ザ・チルドレンによる講演「紛争下の子どもたち」。パレット柏(3/11～16) ○学校訪問事業(訪問校:12校) ○平和都市宣言 40 周年記念事業:中学 2 年生 7 名を広島へ派遣(8/5～7) ○ピースウィーク:パネルの展示、歴史探検バスツアーなど。パレット柏他(8/5～28)



青少年派遣事業報告書

柏市平和都市宣言40周年記念

令和7年3月

発行: 柏市

編集: 柏市平和都市宣言40周年記念事業実行委員会
(事務局: 柏市企画部共生・交流推進センター)